

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ(先端型)
事業報告書 **令和6年度**

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GENDER EQUALITY
PROMOTION OFFICE



「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」事業

◆ 事業目標、数値目標の推移報告

琉球大学は、令和元年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、令和6年度までの実施期間、下記の日標を掲げ、達成に向けて「女性研究者の上位職登用推進及び管理運営能力向上のための取組」、「より広いダイバーシティ研究環境形成のための取組」、「若手研究者・次世代育成のための取組」等を進めてまいりました。

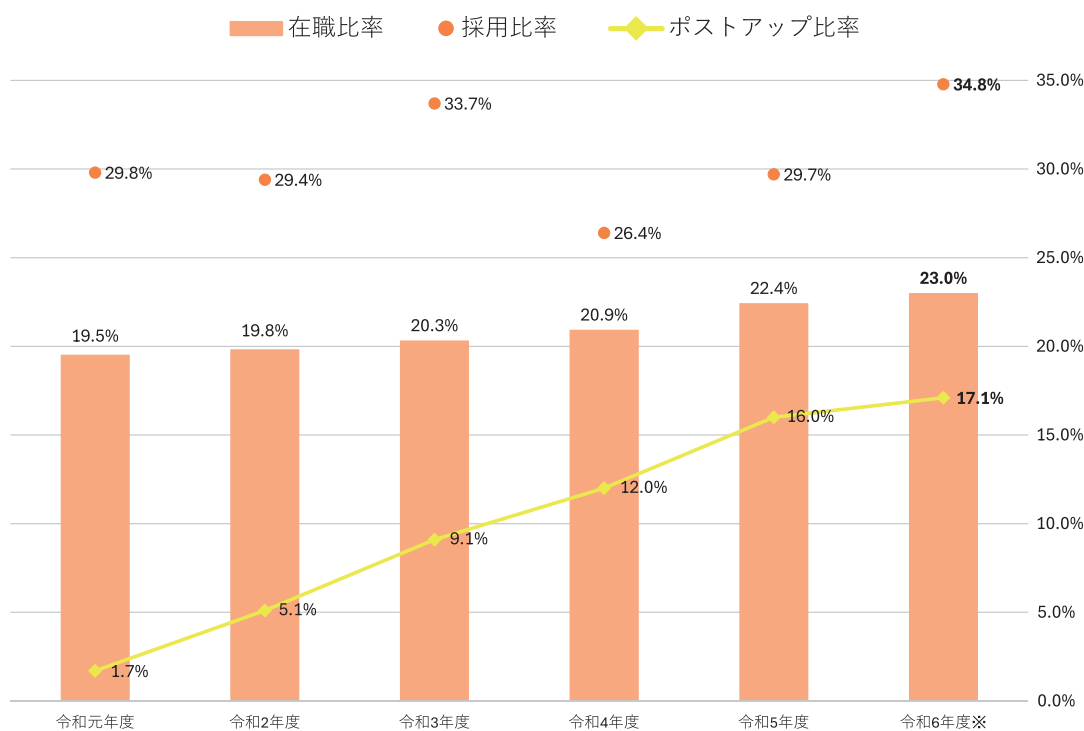
目 標

- I 女性教員の管理運営能力を高め、大学の中核への女性教員の参画を推進する
- II 女性を含む若手研究者の在職率を高めるとともに、キャリアパスを整備する
- III より広いダイバーシティ研究環境形成の観点から、グローバル人材を積極的に採用・登用する

数値目標

- ・女性研究者の採用比率 **28%**
- ・女性研究者の在職比率 **21%**
- ・女性研究者のポストアップ比率 **17%以上**
- ・本務教員全体における 40 歳未満の割合 **20%以上**

図：琉球大学女性研究者の在職・採用・ポストアップ比率の推移



※令和6年度採用比率、在籍比率は令和6年3月31日の見込み値

女性研究者の上位職登用推進及び管理運営能力向上のための取組

◆重点改革推進枠（教員ポスト戦略的再配分）

令和6年度においても、これまでと同様に教員ポスト戦略的再配分（重点改革推進枠）を活用した女性教授限定公募を実施し、**熱帯生物圏研究センターに1名の女性教授**が着任しました。

また、産前産後休暇、育児・介護休業を取得する教員ポストに対する非常勤教員雇用枠の活用も進んでいます。

◆国際学会派遣 + 1 Visit

女性研究者の研究力と管理運営能力の向上を推進することを目的とした「国際学会派遣 + 1 Visit」を実施しました。

採択者 人文社会学部 高橋 そよ 准教授

渡航先：フィンランド・ヘルシンキ

参加学会：Sustainability Research and Innovation Congress

現地滞在期間：令和6年6月10日～21日



◆オーガナイザー養成支援

女性研究者の研究力と管理運営能力の向上を推進することを目的とした「オーガナイザー養成支援」を実施しました。

採択者 大学院医学研究科 山本 和子 教授

プログラム：沖縄エリア感染症・化学療法研修会

【開催日】 令和7年3月15日

◆リーダー育成海外研修

琉球大学世界展開力事業と協力し、リーダー育成海外研修「場面に則した『正しい英語』とは？ -Importance of Learning about and Choosing Appropriate English for Formal Academic and Professional Contexts」を開催しました。

【開催日】 令和6年8月10日

講師：琉球大学グローバル教育支援機構

Song Katherine Hyun Joo 准教授

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先導型）」
令和6年度リーダー育成海外研修

場面に則した「正しい英語」とは？
Importance of Learning about and Choosing Appropriate English for Formal Academic and Professional Contexts

将来専門的な場で英語を使用する人々にとって、社会的地位の差異がある相手や利害関係が発生しにくい相手とのコミュニケーションを想定し、「適切な英語を使用する」という意識を醸成することの重要性を取り上げます。例えば、大学教授や雇用主といった社会的地位に似く人々と英語でコミュニケーションをとる場合、適切かつ丁寧で、フォーマルな話し言葉や書き言葉を使用することは、極めて重要です。

場面に則した適切な英語を使用することへ焦点を当てたこのセミナーは、講師自身が日本語と韓国語の学習者/使用者としてアカデミックな場や職場を経験したことに基づいています。職場において適切な英語表現を学び、使用し、教えた経験から、一般的に礼儀正しく敬語を使う日本人や韓国人が、気づかぬうちに「複雑な」英語を使うことに長年疑問を抱いていました。経験豊富な英語学習者や英語使用者である参加者の意見も求めながら、議論を深めていきます。

グローバル教育支援機構
シンガポール
ヒュンジュン 准教授

日時：2024年8月10日(土) 10:00-12:00
場所：琉球大学50周年記念会館 多目的室AB
対象：本学に所属する教員、研究者、大学院生、学部学生
※ 本研修会講師、及び琉球大学大学院総合文化研究科 博士課程編入 応募中
主催：琉球大学に在籍する男女学生

定員：先着30名
言語：英語
申込フォーム： <https://forms.office.com/43u7gM1>

ジェンダー平等推進室
Email: gender@cc.uoy.ac.jp
Tel: 098-995-8675 (内線: 8675)

女性研究者の上位職登用推進及び管理運営能力向上のための取組

◆女性教員海外調査派遣制度

女性研究者の研究力と管理運営能力の向上を推進することを目的とした「女性教員海外調査派遣制度」を実施しました。

採 択 者 教職センター 中園 有希 准教授

渡航先：ドイツ ニーダーゼクセン州

ライプニッツ教育メディア研究所 ゲオルク・エッカート研究所

渡航期間：令和6年11月25日～令和7年1月26日



【報告】

2024年11月25日から2025年1月26日まで、「女性教員海外調査派遣制度」を利用し、ライプニッツ教育メディア研究所 ゲオルク・エッカート研究所（ドイツ）に滞在しました。期間中は従前からの研究主題「東西ドイツにおける探究的な学びを支える教科書開発」に加え、「2010年以降のドイツにおけるデジタル教科書・教材開発の動向とその課題」、「機会均等を文化として根付かせる工夫と課題」に関し研究・調査を行いました。

後者二つの研究・調査からは特に多くの示唆を得ました。研究所のデジタルラボ「THE BASEMENT」では、地域の教師によるVRなどを活用した歴史・政治授業開発を支援していました。デジタル教材プラットフォーム「中間音—教室における多様性のための教材」では、トルコ語、ウクライナ語、やさしいドイツ語など多言語の提供準備が進んでいました。

組織運営調査では、研究所が15年近く女性管理職の割合を半数以上に維持してきた背景に、法令、制度の整備だけでなく強い意思があることを知りました。平等とは空気感ではなく意思なのだ学びました。貴重な学びを得る機会を頂いたことに感謝するとともに、ジェンダー平等と多様性を琉球大学にさらに深く根付かせるため、自身が果たしうる役割を模索したいと思います。

◆国際学会派遣費用補助制度

女性研究者の研究力向上推進を目的とし、「国際学会派遣費用補助制度」を実施しました。

採 択 者 国際地域創造学部 長堂 まどか 講師

渡航先：イギリス カーディフ（ウェールズ）

参加学会：British Association for Victorian Studies (BAVS)

学会期間：令和6年9月9日～10日



【報告】

このたびは2024年9月9～10日にカーディフ（ウェールズ）で開催されたBritish Association for Victorian Studies (BAVS)の年次大会に参加するにあたり、多大なる援助をいただき誠にありがとうございました。BAVSでは“The Layers of Legend and History: The Blind Beggar, the Kray Twins, and the Construction of London’s Cultural Landscape”というタイトルでロンドン、イーストエンド地区における歴史と伝説の関係性について発表しました。

同学会によるワークショップ Post-Graduate Trainingでは、将来的に研究科の指導を行ううえで必要なコーチングスキルや方法論を具体的に学びました。また、提言発表も兼ねた大会締めくくりのシンポジウムでは、新たに立ち上がった国際研究ネットワークに直接関わることができました。

二日間の大会中には、最先端の研究をされている先生方や大学院生の方々と議論や情報交換をしたり交流を深めたりする機会も多くあり、自分の研究を俯瞰して今後の研究について考える機会にもなりました。

ジェンダー協働推進室をはじめとするみなさまのご支援とご厚意に深く感謝しつつ、これからもより良い研究ができるよう精進して参ります。

より広いダイバーシティ研究環境形成のための取組

◆ 文部科学省科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」総括シンポジウム

第24回琉大未来共創フォーラム×文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）総括シンポジウムを開催しました。第一部では、基調講演として東京大学の矢口祐人副学長・教授を講師にお迎えし、「多様性を大切にする大学と社会を目指して」というタイトルでご講演をいただきました。

第二部では、本学における令和元年度から現在に至るまでの女性研究者活躍支援事業の成果について、小西照子ジェンダー協働推進室長、並びに事業を活用した人文社会学部の高橋そよ准教授、理学部の田中厚子准教授による報告を行いました。科学技術振興機構（JST）の山村康子プログラム主管より、講評をいただきました。

【開催日】 令和6年12月7日

基調講演講師：東京大学 矢口 祐人 副学長・教授

講評：科学技術振興機構（JST）山村 康子 プログラム主管



◆ 第19回琉大未来共創フォーラム×ダイバーシティ推進セミナー

上智大学外国語学部英語学科 出口真紀子教授を講師にお迎えし、「マジョリティ側からダイバーシティを考える一見えづらい「特権」とは？」と題し、第19回琉大未来共創フォーラム×ダイバーシティ推進セミナーを開催しました。

【開催日】 令和6年5月27日

講師：上智大学 外国語学部英語学科 出口 真紀子 教授



◆ ダイバーシティ推進トップセミナー

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンへの理解を促進するため、学長、理事をはじめとした本学執行部を対象に、ダイバーシティ推進トップセミナーを開催しました。

【第一回開催日】 令和6年5月27日

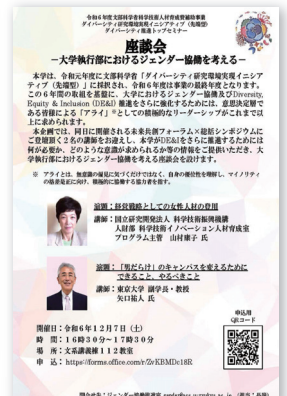
「マジョリティ側の特権を可視化する～アライへの道すじ～」

講師：上智大学 外国語学部英語学科 出口 真紀子 教授

【第二回開催日】 令和6年12月7日

「座談会 -大学執行部におけるジェンダー協働を考える-」

講師：科学技術振興機構（JST）山村 康子 プログラム主管
東京大学 矢口 祐人 副学長・教授



◆ (学内限定) 部課長級研修 ダイバーシティ推進セミナー

総務部職員課とともに、理事、部課長級職員を対象とした「ダイバーシティ推進セミナー」を実施しました。

【開催日】 令和6年10月28日

講師：浦 亜弓 氏

より広いダイバーシティ研究環境のための取組

◆ 教員採用におけるダイバーシティ推進チェックリストの導入

教員選考内規を改訂し、令和5年度8月下旬より、教員採用公募において教員選考調書作成委員会委員長が提出する報告書類の一つとして、「教員採用におけるダイバーシティ推進チェックリスト」を導入しました。令和6年2月、人事諮問委員会にて経過報告を行い、見えてきた課題を共有しました。また、女性研究者の採用をさらに強化するため、「国立大学放任琉球大学教員選考に係る取扱要領の実施に関する申合せ」の改訂を行いました。

◆ ジェンダー協働及びダイバーシティ推進・働き方に係る課題可視化のためのアンケートを実施

数理・データサイエンス・AI教育推進室とともに、「ジェンダー協働及びダイバーシティ推進・働き方に係る課題可視化のためのアンケート」を実施しました。個人の特定につながらないように配慮し、学内限定のダッシュボードにおいてBIレポートを公開しています。

- 調査方法：web形式によるアンケート
- 対象：本学に所属する全教員（特命教員を含む）及び研究員
- 調査期間：令和6年4月18日～5月22日
- 回答件数：187件

◆ 学内限定 SDGs ワークショップを共催

本学のSDGs推進本部における業務・ガバナンス部門及び琉球大学ヒューマンライツセンターと共に、学内教職員を対象としたSDGsワークショップ「人権とジェンダー平等 働きがいのある職場づくり」を共催しました。

【開催日】 令和6年9月11日

● 第一部

SDGsに関する教職員・学生アンケート調査報告書及びTHEインパクトランキング2024の結果について

● 第二部

ジェンダー協働・ダイバーシティ働き方改革に関するアンケートの結果について

● 第三部 特別対談

話者：沖縄弁護士会 野崎 恵子 会長
琉球大学 喜納 育江 副理事・副学長



◆ 附属図書館企画展

下記2件の附属図書館企画展を共催しました。

● 「データサイエンス 知って！」

【開催日】 令和6年3月28日～5月9日

共催 琉球大学数理・データサイエンス・AI教育推進室、ジェンダー協働推進室

● 「令和6年度 女性に対する暴力をなくす運動関連パネル展」

【開催日】 令和6年11月12日～11月25日

主催 公益財団法人おきなわ女性財団
共催 琉球大学附属図書館、ヒューマンライツセンター、ジェンダー協働推進室

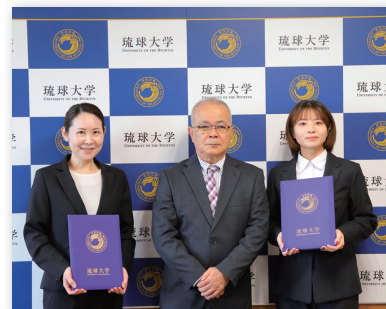


◆うない奨励賞

琉球大学に在籍する女子学生*に対し、その意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を奨励し、継続的に研究に取り組む動機付けにしてもらうために、琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞を授与しています。本賞を通じて将来の学術研究を担う優秀な若手女性研究者および未来社会を牽引する女性リーダーの育成に繋げ、男女共同参画及びダイバーシティの推進等に資することを目的としています。

今年度は、下記2名の学生に授与しました。

*本賞においては、応募者が自認する性を以て「女子学生」と定義しています。



受賞者 渋谷 文子さん
(保健学研究科 保健学専攻 博士後期3年次)

新城 陽菜さん
(理学部 海洋自然科学科 4年次)

◆琉球大学岸本遺贈基金「女子大学院生対象グローバル人材育成事業」

岸本遺贈基金寄附金事業において、本学の女子大学院生を海外の教育研究機関等に派遣しています。受入れ先研究者の指導の下、国際的な研究環境におけるリサーチに携わり、異文化の学修環境に触れ、多様な学問文化を経験することで、優れた研究成果の発表に結びつけるとともに、スキルアップやモチベーションの向上を図り、グローバルに活躍する次世代の女性研究者を目指す契機とするものです。

厳正なる審査の結果、今年度は、下記の学生の派遣が決定しました。

採択者 石川 和さん (法務研究科 法務専攻)

派遣期間：令和7年2月24日～3月7日

◆令和6年度 研究活動等支援員制度

出産・育児や介護等、ライフイベント中の研究者に対し教育研究支援を行うため、研究活動等支援員を雇用し、配置しました。ワークライフバランスを保ちながら研究者が能力を最大限に発揮できる環境を整備することで、研究力の向上のみならず大学の管理・運営や社会貢献に積極的に携わる人材を育成することを目的としています。また同時に、支援員として学部学生・大学院生を雇用することにより、支援員自身がキャリアパスを考える機会となるよう、本制度の活動を通して次世代の女性研究者育成にも努めています。

■支援内訳(人)

	第1期	第2期
利用者(教員)	8	11
支援員	12	17

◆令和6年度「育児サポート・サービス及び病児・病後児保育利用料補助事業」および「女性研究者介護帰省費用補助事業」

本学の教職員の仕事と家庭生活の両立を支援するため、育児支援におけるサポート・サービスを利用する場合の利用料の一部を補助する「育児サポート・サービス及び病児・病後児保育利用料補助事業」を実施しました。また、本学の女性研究者が介護を目的とした帰省に際して、航空券を購入する場合に費用の一部を補助する「女性研究者介護帰省費用補助事業」を実施しました。

■支援内訳(人)

	育児サポート・サービス及び病児・病後児保育利用料補助事業	女性研究者介護帰省費用補助事業
採択者	4	3

●先端型 HP

文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業（先端型）に係る情報は下記のウェブサイトからご確認いただけます。

<https://gender.skr.u-ryukyu.ac.jp/sentan/>



国立大学法人琉球大学 ジェンダー協働推進室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
e-mail : gender@acs.u-ryukyu.ac.jp
電話 : 098-895-8675 (内線 : 8675・2675)
<https://gender.skr.u-ryukyu.ac.jp>